

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用又は他の研究機関への提供を希望されない場合は、下記の「本研究に関する当院の連絡先」にご連絡ください。ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	破裂脳動脈瘤の大きさ・部位・年齢・性差、脳血管攣縮・遅発性脳虚血、治療法・転帰の長期変化と関連因子の研究
意義・目的	我が国では、脳ドック検診やMRIの普及で、未破裂脳動脈瘤の発見される割合が高くなっていますが、欧米に比し約3倍破裂しやすいという報告があります。くも膜下出血（以下、SAH）の原因の多くは脳動脈瘤破裂であり、再破裂が予後を大きく左右します。SAHについての治療法は、開頭クリッピング術に加え、コイル塞栓術が可能となり、脳血管攣縮、遅発性脳虚血、転帰なども変化してきました。 本研究では、破裂脳動脈瘤の大きさ・部位・年齢・性差、脳血管攣縮・遅発性脳虚血、治療法・転帰の長期変化を調査します。このことにより、脳動脈瘤破裂の危険因子を検討し、最終的に動脈瘤破裂を欧米並みに減少させることを目的とします。
研究期間	当院病院長許可日（利用開始日）2018年11月1日～2029年3月31日
対象患者	1978年1月1日～2029年12月31日の間までに当院に入院した破裂脳動脈瘤患者さん
研究内容	「利用する試料・情報の項目」の情報を収集し、破裂脳動脈瘤の大きさ、部位、性状、年齢、性を年代別に調査し、それらの変化を明らかにします。また、脳血管攣縮・遅発性脳虚血、治療法・転帰の長期変化その原因因子を厚生労働省人口、疾患、死亡データから高齢化率の変化、破裂脳動脈瘤の危険因子である高血圧、喫煙解析、逆相関であるスタチン内服などとの関連性を統計学的に検討します。さらに、当院のデータには既往歴、採血データも含まれており、関連性について検討します。 なお、個人が特定できる情報は削除した上で公表します。
利用する試料・情報の項目	院時年齢、性別、SAH発症日、入院日、破裂部位、動脈瘤性状、動脈瘤サイズ分類、動脈瘤最大径、治療内容、入院時CT、Fisher分類、Day4CT Fisher、Hunt & Hess入院時グレード、WFNS入院グレード、脳血管攣縮の有無、脳梗塞、退院時評価、6か月後評価、既往症、合併症、血液データ、投与薬物等 Fisher分類：SAHの程度から脳血管攣縮の発生のリスクを予測するためのスケール Hunt & Hess：SAH患者さんの重症度分類のひとつ WFNS：SAH患者さんの重症度分類のひとつ
試料・情報の他機関への提供有無	<input type="checkbox"/> あり（ <input type="checkbox"/> 国内 <input type="checkbox"/> 海外） 提供方法： <input checked="" type="checkbox"/> なし

研究組織	<p>研究代表機関：機関名および研究責任者名 島根県立中央病院 井川 房夫</p> <p>共同研究機関：機関名および研究責任者名 該当なし</p> <p>試料・情報提供を行う機関：機関名および施設長名 該当なし</p>
本研究に関する 当院の連絡先	<p>研究責任者： 島根県立中央病院 脳神経外科 井川 房夫 電話：0853-22-5111（代表）</p> <p>事務担当： 島根県立中央病院 臨床研究・治験管理室 電話：0853-30-6590（直通）</p>
個人情報の保護	<p>当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。 URL：https://www.spch.izumo.shimane.jp/privacy</p>
結果の公表	<p>研究成果によって複数回、投稿論文として公表します。</p>
備考	